

令和6(2024)年度
一般選抜前期日程 試験問題
情報科学部 情報科学科

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 4 問題は全部で5ページ、解答用紙は全部で1枚あります。
- 5 試験時間は45分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手してください。

問題

以下は情報源の多様性について説明した資料である。これらの資料を使って問1～3に答えなさい。

資料1

メリーランド大学の研究者、ブルック・オージエとジェシカ・ヴィタクは、今年（2019年）5月に共同で「デジタルニュース環境におけるカスタマイゼーションとエコーチェンバー構築の動機となる要因」と題された論文を発表した。この研究において彼らは、アマゾンのサービス「メカニカル・ターク」（同社のウェブサイトを通じて、世界中にいる不特定多数の人々にさまざまな作業を依頼し、その結果もウェブを通じて得られるというもの）を利用して317人の米国人にアンケートを取り、彼らがどのようなデジタル情報源（ニュースサイトやソーシャルメディア、モバイルアプリ等）からニュースを得ているのかを調査した。そしてその結果に基づき、調査対象者を「エコーチェンバー構築者」と「ダイバーシティ（多様性）模索者」に分類した。

エコーチェンバーとは「残響室（音が響いて残響が長い間続くように設計された部屋）」を意味する英単語なのだが、コミュニケーションの文脈で使われた場合、「同じような意見しか交わされない、閉じたコミュニティや情報ネットワーク」を意味する。つまり対象者を、「似たような（自分の考え方と一致する情報を提供してくれる）情報源にしか接しようとしなない人」と「情報源の多様性を積極的に求めようとする人」に分けたというわけだ。

研究者たちはそれと同時に、調査対象者に対して、最近の出来事についてどの程度の不安を感じているかも尋ねた。そしてエコーチェンバー構築者とダイバーシティ模索者の間で、不安感の程度に差があるかを確認したのである。

結果はご想像の通り、多様な情報源に接しようという姿勢を持つ「ダイバーシティ模索者」の方が不安感が少ない、というものだった。オンライン上でさまざまな、すなわち主義や主張が異なる複数のニュースサイトを閲覧したり、他のユーザーと交流したりといった行為を積極的に行うと回答した人々は、現在の出来事に対する不安のレベルが低かったのである。

この研究では、「なぜ情報源を多様化すると不安が和らぐのか」の理由までは踏み込んでいない。したがって、因果関係が逆、つまり心に余裕がある人ほど自分とは異なる意見や、自分を否定するような主張に接することも厭（いと）わないという可能性もあるだろう。とはいえ多様な意見に接しているかどうかと、現状に不安を感じるかどうかに関係があるというのは興味深い研究結果だ。

（中略）

では皆さんはどのような情報源からニュースを得ているのか、少し思い返してみてください。身近なことや仕事のことについては、当然ながら家族や友人、会社での知人などが情報源に

なるだろう。一方、事件や事故、あるいは時事問題の場合はどうだろうか。伝統的な新聞や雑誌、テレビやラジオのニュースに加えて、最近ではウェブメディア、特にツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアが挙げられるのではないだろうか。

ただそうしたマスメディアやウェブメディアについても、頻繁に見に行く・聞きに行く媒体となると、それほど数は多くないはずだ。

新聞を購読しているという方は、多くても2紙までではないだろうか。ニュース番組も朝から晩まで、各局の内容をチェックしているなどという方は相当なニュースマニアであり、ふつうは仕事に行く前・帰って来た後にチャンネルを合わせるという番組が、2つか3つ程度だと考えられる。雑誌も趣味の雑誌や専門誌を除けば、毎週あるいは毎月チェックしているというものは限られてくるに違いない。

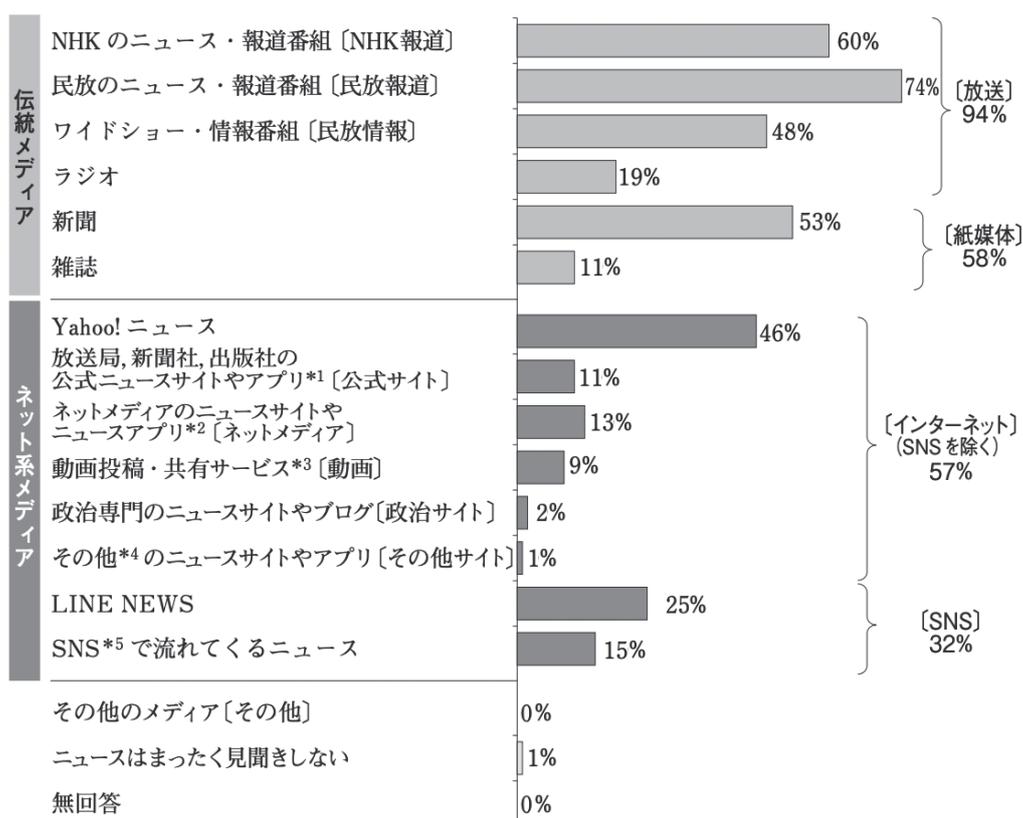
さらに考えてみよう。自分が普段接している媒体が扱うニュースの傾向や、思想上の特徴については、どの程度の開きがあるだろうか。これについても、保守系の新聞も読めばリベラル系も読む、あるいは政権寄りの姿勢が強いニュース番組も見れば、政権批判を繰り返す番組もチェックするという方は少数派のはずだ。

そう、無意識のうちに「エコーチェンバー構築者」になってはいないだろうか？

情報源におけるダイバーシティとは、単にアクセスするサイトを増やしたり、交流する友人を増やしたりすることではない。普段見ているサイトからリンクしているサイトは、やはり似たような主張を行う媒体であることが多く、また知人の知人も同じようなコミュニティの一員であることが多い。意識的に「自分の主義主張とは異なる情報源」を探しに行かないと、情報の多様性は広がらないのである。

特にデジタル情報源の場合、ツイッターやフェイスブックのように、自分の閲覧履歴に基づいて「お勧めユーザー」や「お勧めコンテンツ」が表示されるというのが最近の傾向だ。若者の間で人気の動画コミュニケーションアプリ「ティックトック (TikTok)」でも、AIが個人の好みを解析し、コンテンツをお勧めするという機能が実装されている。これによりティックトックは、非常にユーザーの滞在時間が長いサイトになっており、彼らのようなサービスの成功を受けて、「AIが自分の好みに合ったコンテンツを選んでくれる(すなわちAIがダイバーシティを狭めてくれる)」という仕組みはますます一般化するだろう。

資料2 ニュースを見聞きするメディア（複数回答、全体）



※〔 〕表記がある選択肢については、以降、〔 〕内の略称を使用する

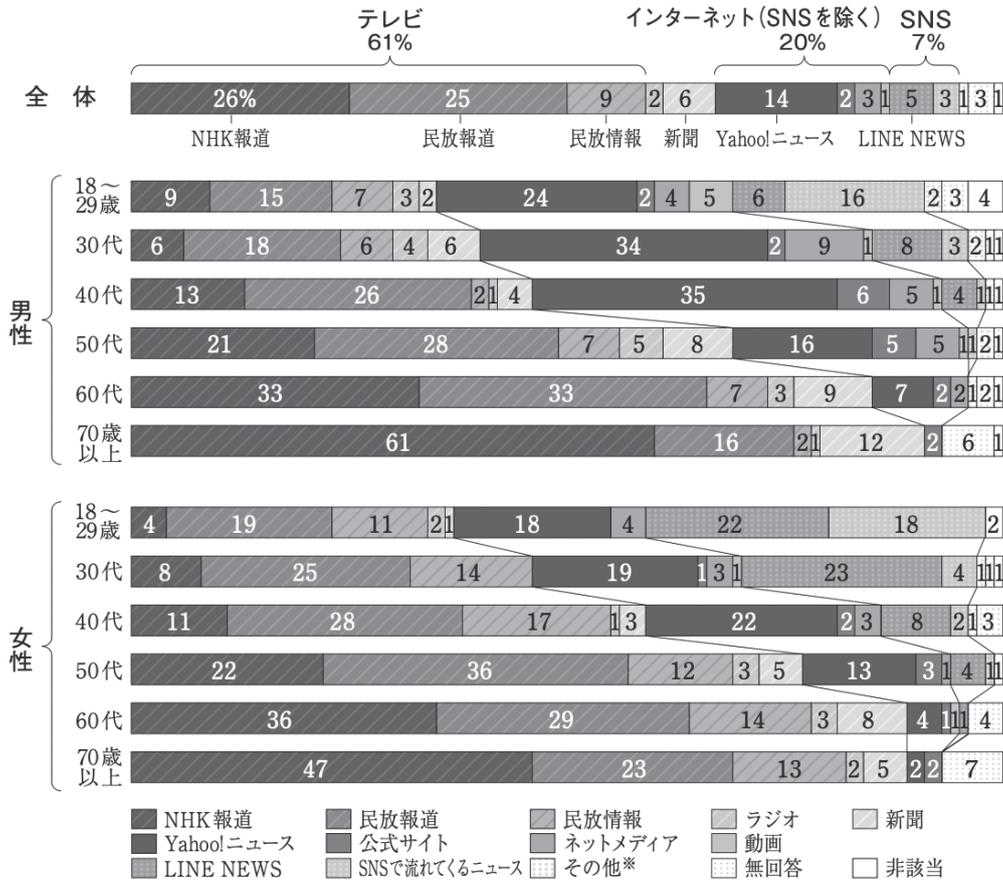
*1: 新聞・雑誌の電子版を含む *2: スマートニュース, グノシー, ハフポスト(ハフイントンポスト), NewsPicks, BuzzFeedなど

*3: YouTube, ニコニコ動画など *4: 「Yahoo!ニュース」「LINE NEWS」「放送局, 新聞社, 出版社の公式ニュースサイト

やアプリ」「ネットメディアのニュースサイトやニュースアプリ」「SNSで流れてくるニュース」「動画投稿・共有サービス」「政治専門

のニュースサイトやブログ」以外 *5: Twitter, Facebookなど

資料3 最もニュースを見聞きするメディア



※0%は省略
 ※「雑誌」「政治専門のニュースサイトやブログ」「その他のニュースサイトやアプリ」「その他のメディア」の合計
 ※回答結果を足し上げる場合、各選択肢の実数を足し上げて%を再計算するため、%の合計とは一致しないことがある

【出典】

資料1：朝日新聞デジタル 論座アーカイブ（2019年7月30日）『不安を和らげる「情報源の多様化」～無意識の「エコーチェンバー構築者」にならないために～』小林啓倫

<https://webronza.asahi.com/business/articles/2019072400005.html>

資料2、資料3：NHK放送文化研究所『放送研究と調査』2019年6月号『ニュースメディアの多様化は政治的態度に違いをもたらすのか～「ニュースメディア接触と政治意識」調査から～』

※問題作成にあたって、資料を一部改変し引用した。

問1

資料1において、『意識的に「自分の主義主張とは異なる情報源」を探しに行かないと、情報の多様性は広がらない』と述べられています。情報源の多様性を広げることがなぜ必要であると考えられるのか、資料の内容に沿って250字以内で説明しなさい。ただし、「エコーチェンバー構築者」と「ダイバーシティ模索者」の両方の用語を使って解答しなさい。

問2

資料2、資料3の両方を使って、ニュースメディアの情報源がどのように多様化しているのかを読み取り、200字以内で説明しなさい。ただし、主に用いられているメディアとその年齢、性別による差異に着目すること。

問3

情報源が多様化することによる社会への影響にはどのようなものがあると考えられますか。具体例を挙げて、あなたの考えを300字以内で説明しなさい。